

《履修モデル》

講座	8.文化・地域環境講座	
学系	文化環境学系	
関係・分野	文化・地域環境論（環境構成論分野）	
教員	中嶋節子 教授 都市史・建築史・都市景観論 前田昌弘 准教授 災害復興・まちづくり・計画論 藤原 学 助教 建築論・空間構成・建築と文学	
	「都市・建築・環境の歴史と社会」コース	「災害復興・地域まちづくり計画学」コース
1回生	<p><学部科目> 文化環境学系入門/国際文明学系入門A <全学共通科目>（主専攻科目となる） 都市空間論/都市空間論各論Ⅰ/都市空間論基礎ゼミナールⅠ/図学A・B/地域地理学関係科目/人文地理学関係科目ほか <全学共通科目>（主専攻科目とまらない） 建築関係科目/都市史関係科目/芸術学関係科目/公共政策関係科目ほか</p> <p>自由科目は相談してください。 他学部開講科目については、科目名、提供科目が異なる場合があります。シラバスや担当学部事務室で確認してください。</p>	<p><学部科目> 文化環境学系入門/人間科学系入門A <全学共通科目>（主専攻科目となる） 都市空間論/都市空間論各論Ⅱ/都市空間論基礎ゼミナールⅡ/図学A・Bほか <全学共通科目>（主専攻科目とまらない） 防災学概論/環境防災生存学特論/ILAS Seminar現代建築の歴史と理論/公共政策関係科目/経済学・社会学系科目ほか</p>
2~3回生	<p><学部科目> 環境構成論Ⅰ/環境構成論Ⅲ/環境構成論Ⅳ（「環境構成論」は隔年で内容が変わります。いずれも重複履修可能。） 環境構成論実習Ⅰ/環境構成論実習Ⅲ/環境構成論実習Ⅳ/環境構成論演習Ⅰ/環境構成論演習Ⅲ/環境構成論演習Ⅳ（演習と実習は隔年開講。）/文化・地域環境論（建築読解入門）</p> <p>他学部を含む建築学 歴史学 造園学 地理学 社会学など接続する分野の授業を受講することをお勧めします。 自身の興味を研究へと高めることを意識した科目選択を心がけてください。</p>	<p><学部科目> 環境構成論Ⅱ/環境構成論Ⅲ/環境構成論Ⅳ（「環境構成論」は隔年で内容が変わります。いずれも重複履修可能。） 環境構成論実習Ⅱ/環境構成論実習Ⅲ/環境構成論実習Ⅳ/環境構成論演習Ⅱ/環境構成論演習Ⅲ/環境構成論演習Ⅳ（演習と実習は隔年開講。）/文化・地域環境論（建築読解入門）</p> <p>他学部を含む建築学 防災学 社会学 文化人類学 経済学など接続する分野の授業を受講することをお勧めします。 自身の興味を研究へと高めることを意識した科目選択を心がけてください。</p>
4回生	<p><学部科目> 環境構成論特別演習A・B</p> <p>卒業研究のテーマを設定し、論文執筆に向けて調査・研究を進めていただきます。論文執筆に必要な科目があれば、追加履修することをお勧めします。</p>	
<p>環境構成論は人間の生活環境である都市（集落を含む）と、それらを構成する建築（庭園・土木構造物・インフラ・緑地を含む）を扱う学問分野です。 この分野へのアプローチは、個々の構成要素から分析を進めるミクロな視点から、全体像を捉えるマクロな視点に至るさまざまな段階があります。また、近年ではパンデミックや多発する災害から既存の居住地や生活環境のあり方を再考する動きも活発です。それぞれの視点において、形成史や構成原理、歴史的・文化的背景、政治的・経済的背景、技術、思想など、フィジカルな現象のみならず人間社会的な事象も視野に入れて、人間の生活環境を深く理解することを目指しています。 ここでは、2つのコースを例示します。</p> <p>1. 「都市・建築・環境の歴史と社会」コース（歴史から考える） 都市あるいは集落という空間的まとまりが、いかに形成され、変遷し、現在に至っているのかを理解するとともに、現代的課題として、その保全と継承、これからのあり方を考えるコースです。 <想定される職種> 都市論や都市史、歴史遺産の研究者・技術者/伝統的町並みや文化的景観、世界遺産など歴史的環境の保全にかかわる仕事（国際機関・行政・コンサルほか）/都市開発や都市計画、まちづくりに関係する仕事（ディベロッパー・コンサル・シンクタンク・ゼネコン・信託銀行・NPO法人・行政ほか）/建築・土木・デザインに関する仕事（ディベロッパー・コンサル・住宅メーカー・不動産業者・ゼネコン・信託銀行・デザイン事務所ほか）</p> <p>2. 「災害復興・地域まちづくり計画学」コース（地域から考える） コミュニティと居住環境との関係を、災害復興や地域行事の継承などから理解し、これからの居住のあり方、居住地のかたちを多面的に考えるコースです。 <想定される職種> 建築計画や公共政策、地域連携の研究者・技術者/建築・土木・デザインに関する仕事（ディベロッパー・コンサル・住宅メーカー・不動産業者・ゼネコン・信託銀行・デザイン事務所ほか）/都市開発や都市計画、まちづくりに関係する仕事（ディベロッパー・コンサル・シンクタンク・ゼネコン・信託銀行・NPO法人・行政ほか）</p> <p>人間の生活環境を捉えるには、どちらのコースの内容も必要ですが、講義や演習を受けるなかで、両コースを組み合わせて、オリジナルのコースをつくることも可能です。履修回生はおおよその目安であり、シラバスに断わりの無い限り、履修順序は問いません。他学部の授業を積極的に受講することもお勧めします。開講科目は年度によって変更があるため、時間割およびシラバスで確認してください。</p>		

《履修モデル》

講座	8.文化・地域環境講座	
学系	文化環境学系	
関係・分野	文化・地域環境論（文化人類学分野）	文化・地域環境論（文化人類学分野）
教員	教授：風間計博	教授：岩谷彩子
1回生	<全学共通科目> 文化人類学Ⅰ／生態人類学Ⅱ	<全学共通科目> 文化人類学Ⅰ／文化人類学Ⅱ
	全学共通科目については、2回生向けの授業を履修してもよい。哲学・思想・歴史・地理等、幅広く履修すること。また、全学教育科目「生態人類学Ⅰ」（ASAFAS教員提供科目）、Cultural AnthropologyⅠ〔デ・アントーニ担当〕（E2科目）の履修を推奨する。	
2回生	<全学共通科目> 文化人類学各論Ⅰ／文化人類学各論Ⅱ／文化人類学調査演習 <学部科目> 文化人類学調査法	<全学共通科目> 文化人類学各論Ⅱ／宗教人類学／社会人類学調査演習 <学部科目> 社会人類学調査法
	調査法・調査演習は、それぞれの教員の指導により卒業論文を書く場合には、4回生までに必ず履修すること。また、文化・地域環境論（文化人類学入門）〔梶丸他担当〕、Topics in Cultural AnrhropologyⅠ〔デ・アントーニ担当〕（E2科目）の履修を推奨する。	
3回生	<学部科目> 文化人類学演習A／文化人類学演習B	<学部科目> 社会人類学演習A／社会人類学演習B
	文化人類学演習A/B、社会人類学演習A/Bは、それぞれの教員の指導により卒業論文を書く場合、4回生までに必ず履修する。また、文化実践論A/B（人文研等教員提供科目）、生態人類学演習（ASAFAS教員提供科目）の履修を推奨する。	
4回生	<学部科目> 文化人類学方法A／文化人類学方法B	<学部科目> 社会人類学方法A／社会人類学方法B
	それぞれの教員の指導により卒業論文を書く場合には、必ず履修すること。この科目は、4回生のみ履修を認めるが、3回生以下でもオブザーバー参加は可能である。	
<p>文化人類学は、人間の生にかかわるきわめて広い領域を取り扱う学問である。したがって、文化人類学以外にも、人文社会系・自然科学系を問わず、多様な学問的知識を吸収しておくことが望まれる。また、卒業論文においては、フィールドワークが必須となるため、机上の学習のみならず、実際に人間が生活を営む場に参与する経験も重要である。</p> <p>「調査法・調査演習」は、フィールドワークの実践に対応した科目であるため、3回生までに履修しておくこと。これらに加えて、文化人類学分野で卒業論文を書く場合には、指導教員の開講する「演習A/B」「方法A/B」が必修となる。</p>		

《履修モデル》

講座	8.文化・地域環境講座
学系	文化環境学系
関係・分野	文化・地域環境論（地域空間論分野）
教員	教授：小島 泰雄（農村地理学・中国研究） 教授：山村 亜希（歴史地理学） 准教授：久木元 美琴（都市地理学）
1回生	<p><全学共通科目> 人文地理学 / 地域地理学 / 自然地理学 地理学基礎ゼミナールⅠ読図 / 地理学基礎ゼミナールⅡ作図 地理学基礎ゼミナールⅢ地理情報 /</p> <p><学部科目> 文化環境学入門 / 基礎演習：地理学から中国を考える 基礎演習：歴史地理学 / 基礎演習：都市地理学</p> <p>人文・社会科学から自然科学まで多様な専門領域を学ぶ中で、これらの地理学の基礎的な科目の受講を通して、地域空間論/人文地理学とは、どのような専門領域であるか、そして指導をつけることになる教員はどのような人か、を知ってください。</p>
2回生	<p><全学共通科目> 人文地理学各論Ⅰ（都市） / 人文地理学各論Ⅱ（村落） 人文地理学各論Ⅲ（歴史地理） / 人文地理学各論Ⅳ（地理情報） 人文地理学各論Ⅴ（経済地理） / 地域地理学各論Ⅰ（日本） 地域地理学各論Ⅱ（欧米） / 地域地理学各論Ⅲ（アジア・アフリカ）</p> <p>これらの授業は地理学の各論であり、1回生から履修を始めても構いません。受講を通じて、地域空間論/人文地理学をより深く理解してください。</p>
3回生	<p><学部科目> 地域空間論ⅠA / 地域空間論ⅠB / 地域空間論ⅡA / 地域空間論ⅡB 地域空間論ⅢA / 地域空間論ⅢB / 地域空間論Ⅳ / 地域空間論Ⅴ 地域空間論演習Ⅰ / 地域空間論演習Ⅱ / 地域空間論演習Ⅲ</p> <p><他学部科目> 地理学特殊講義（文学部科目） / 地理学講義（文学部科目）</p> <p>自らの研究の方向性を考えるために、上記の科目の履修を薦めます。とくに「地域空間論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「地域空間論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、研究を進める方法を学ぶために、ぜひ履修してください。また指導教員を選んだ後期からは、院生が研究報告を行うゼミナール（大学院演習）を傍聴することもできます。</p>
4回生	<p><学部科目> 地域空間論演習Ⅳ</p> <p>卒業論文は自らテーマを決めて行う研究活動ですので、学生は指導教員と対話を重ねて、考え、書いてゆくこととなります。「地域空間論演習Ⅳ」は卒論を書く基盤となる地理学の方法を確認する機会となりますので、必ず受講することになります。また、卒業論文の途中経過について7月と11月に発表し、研究室の学生・院生・教員と討論を行います。</p> <p>近年の卒論テーマは、「川の地名」「商店街の形成」「温泉町の形成」「第2位都市」「流水シミュレーション」「商店街の組織化」「ローカル線存続」「駐輪問題」「京都市バス」「京都の銭湯」「観光まちづくり」「郷土富士」「サッカーの地域密着度」「新型書店」「地域資源」「京都の小学校」「アニメの聖地巡礼」「動物愛護」「近代の工業都市」「中心都市の形成要因」「軍港都市」「中口国境」「社会的孤立」「主観的距離」「学生街の変化」「ハンブルクと港」「留学生の日本観」と多様です。</p> <p>「地域空間論演習Ⅳ」以外に、とくに4回生でとるべき授業はありませんが、全学共通科目の基礎的な科目や総合人間学部の専門科目など、自らの教養を深め、専門性・学際性を高めるための履修を継続することを期待します。</p>
<p>地域空間論分野は、人文地理学を専門領域の基盤に据えて、多様な地域の様態と空間の構造を学際的に研究する教員と学生・大学院生が集まる研究室です。小島泰雄（農村地理学・中国研究）、山村亜希（歴史地理学）、久木元美琴（都市地理学）の3名の教員が協力して、学生一人ひとりが自ら選択したテーマに関する研究と卒業論文作成をサポートしています。</p> <p>学生と教員が共有する知的基盤である人文地理学は、人間と自然の関係や地域の多様性を解明することをめざす専門領域です。履修にあたっては、地理学に関する履修（全学共通科目、総合人間学部科目、文学部科目）だけでなく、副専攻をはじめとする多様な専門領域の履修に挑戦し、さらには留学を含めた、将来の活躍の基礎となる自らの力を高めることを意識して、学部学生としての日々を有意義に過ごすことを期待します。なお、この研究室で学ぶにあたって、高校までの地理教育の知識は前提ではありません。</p> <p>1回生から全学共通科目の地理学関係科目（たとえば人文地理学各論や地域地理学各論）をたくさん受講することも、2回生から学部科目（たとえば地域空間論演習）を積極的に受講することも、自らの学習計画に応じて設計してください。</p>	